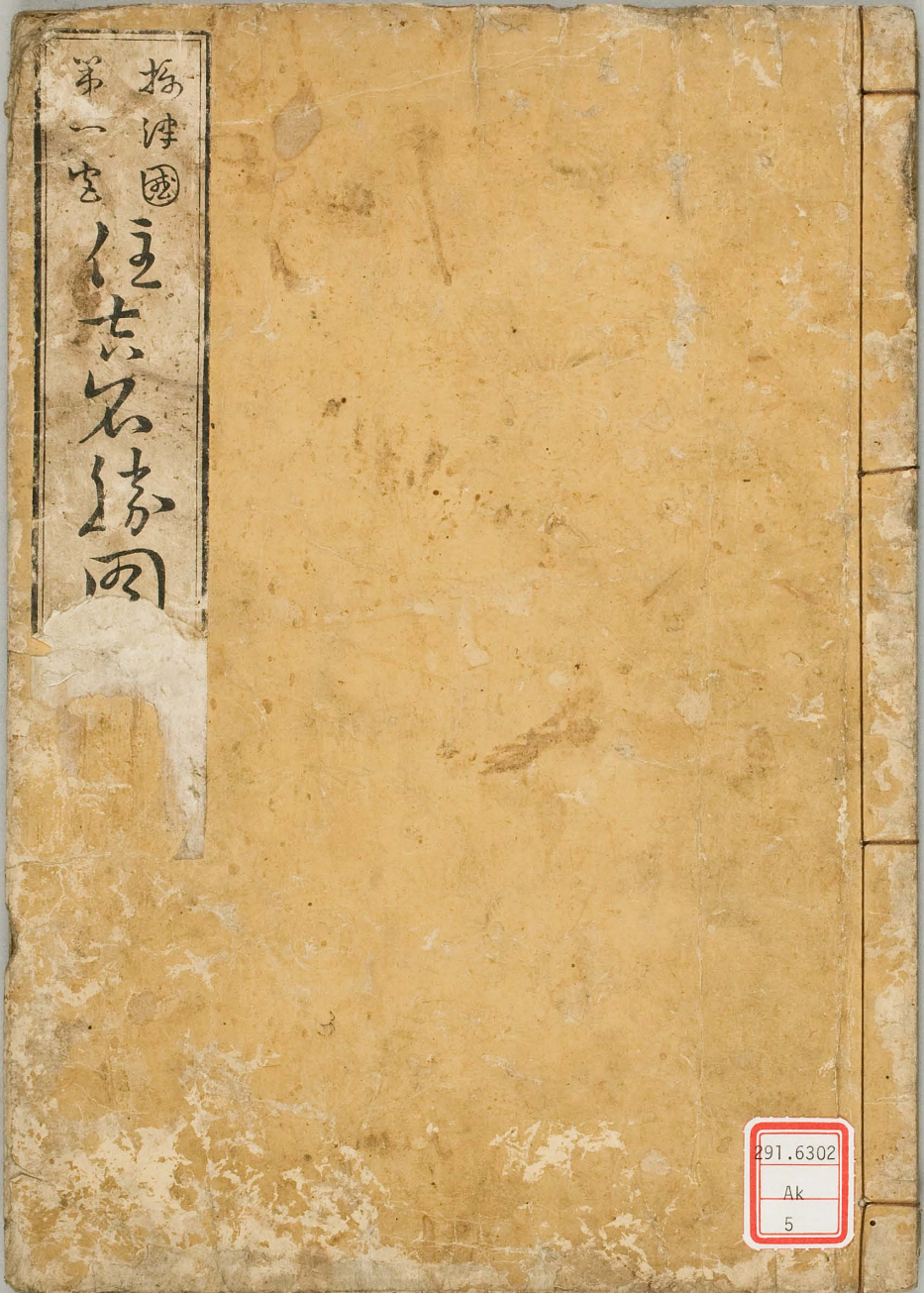
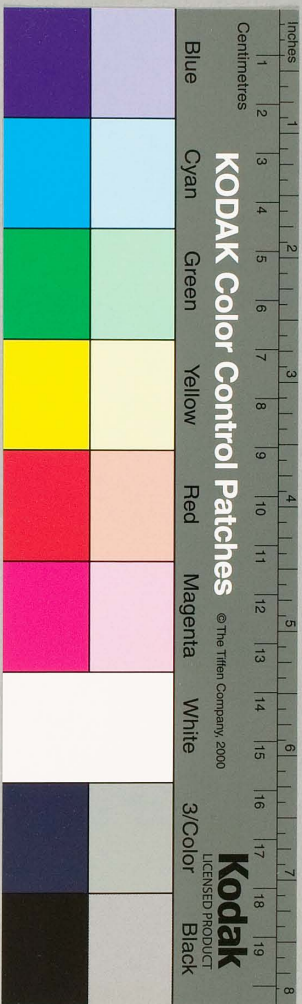


0412



291.6302  
Ak  
5

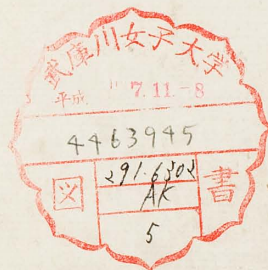


振津國  
第一卷

住吉名義圖

291.6302  
Ak  
5







住吉名勝圖會卷之五目錄

住吉神樂受取渡場之圖

堺神明宮之圖

同宿院之圖

同方違宮之圖

住吉踊之圖

同大寺之圖

同甲社由来

同向泉寺之圖

船之町之由来



神詠和歌圖

西林寺之圖

赤染衛門奉和歌圖

神木之由来

以上

神講和歌圖

蛙詠和歌圖

小集樂之圖

墨吉吟歌詠煙雲  
猿豪子能歌夕  
望園畫置巾笈

三島應道 繪



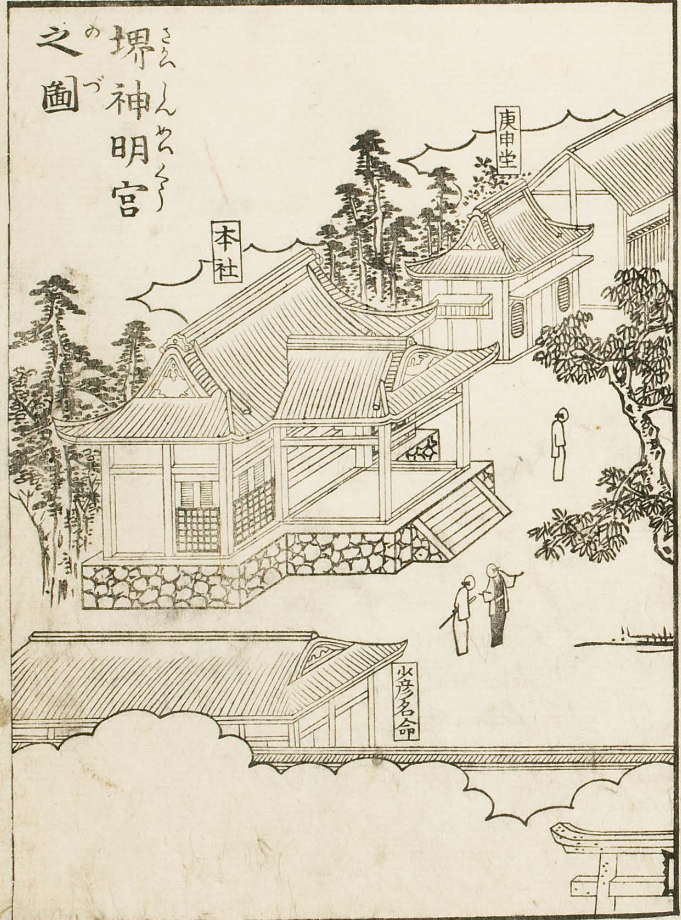


やまこしん  
 大和橋神興  
 受取渡之臺  
 石  
 六月荒和太校神興  
 堀の宿院御幸の  
 時此所を攝州乃  
 加長泉州の加長  
 神興と渡奉る  
 還前の際此所



受取奉る  
 渡場  
 大和橋長サ百二十  
 間元大和川と大坂  
 御城の東と京橋の  
 下へ流れをえぬ  
 十七年河内柏原村  
 西へ真直し浅香山  
 と堀切今の太和川  
 とやれ







神明宮

東西十間  
南北九間

祭神伊勢外宮内宮春日明神八幡太神祇相殿に九月

十六日十月十六日祭礼執行に六月住吉の神樂堀の宿院

御幸の道す此神明町を遙に隔て供奉しやう有奉

三村大明神社

有泉州太島郡鹽穴下條開口村  
社領八十石境内東西南北六十一間四面

祭神伊事勝食勝國長狹尊号鹽土老翁相殿二座素戔嗚

尊生玉大神也伊鹽土老翁奉り伊持諾尊の御ふと

日向國小戸の鹽瀬と誕生す葦原瑞森に移住り

神功皇后三韓退治の御時皇后より合せし夷國平治

の後當津に跡をたれ三村大明神と拜す

すかり宮居り故其後人王四十五代聖武天皇天平十六年

三村明神行基上人勅して此地一字の道場を建立し密乘山

大念佛寺と號し俗呼て大寺と稱し祖師弘法大師真言

金堂中尊藥師如來左親迎牟尼佛右阿彌陀如來日光菩薩土神將

三重寶塔本尊大日如來聖德太子御作之四天王

鐘樓食堂已下撰社天照皇太神宮外宮荒神社大寺の鎮

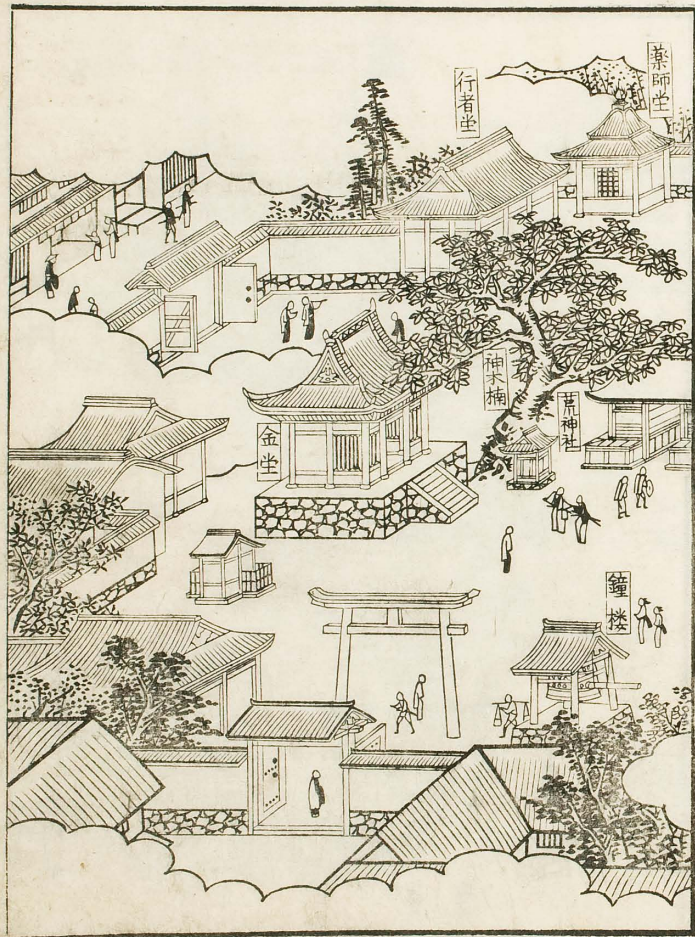
天神社安住寺鎮守也幸寺馬堂明神社甲明神社稻荷明神社

舟玉明神社夷社大黒社如意御前大寺より三町長景向石

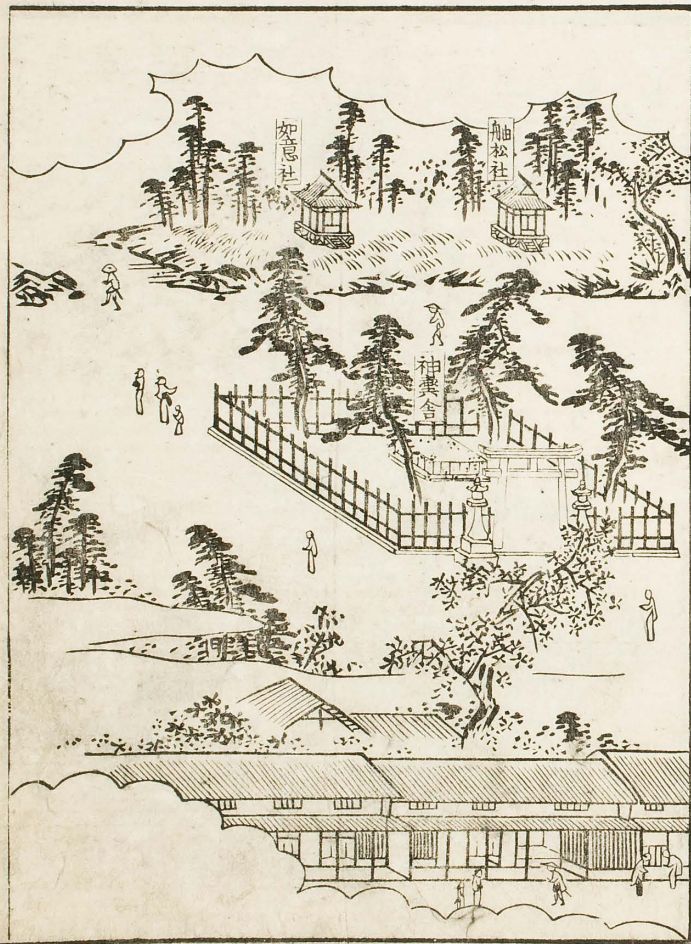
鉾塚不盡菴藥師堂衆徒六坊西の門密乘山の額石

の鳥井三村大明神の額竹内の門主良尚親王の御筆なり











宿院

境内東西八十四間南北六十間

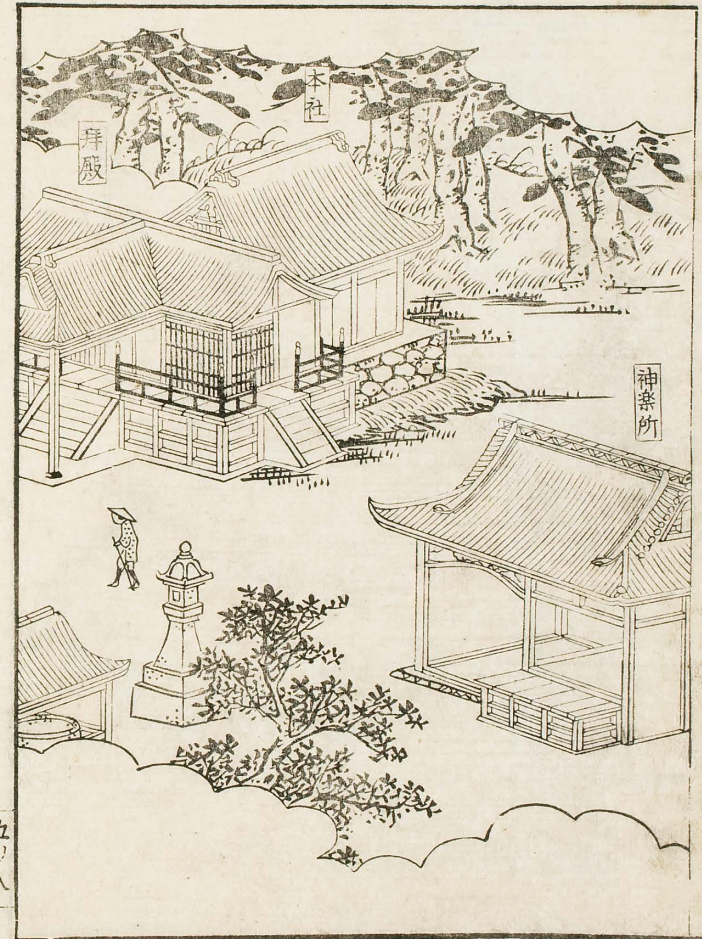
例年六月晦日住吉明神の神輿此地へ渡御せらる  
御施所なり故に宿居にも書り神輿の假り居すれども  
なれども境内に祭る小社に舩松社如意社甲の社なり  
南の方の飯に堀に昔時神功皇后干珠を埋む処なり  
堀の大サ東西四間半南北五間大鳥井に小鳥井あり  
此所の地名と九艘小路とを神功皇后所歸陣の時  
此浦に所舩九艘とをせりて名にけり  
其所舩をほきり松樹神に祭りて舩松丸奉  
ねりなり

甲の社

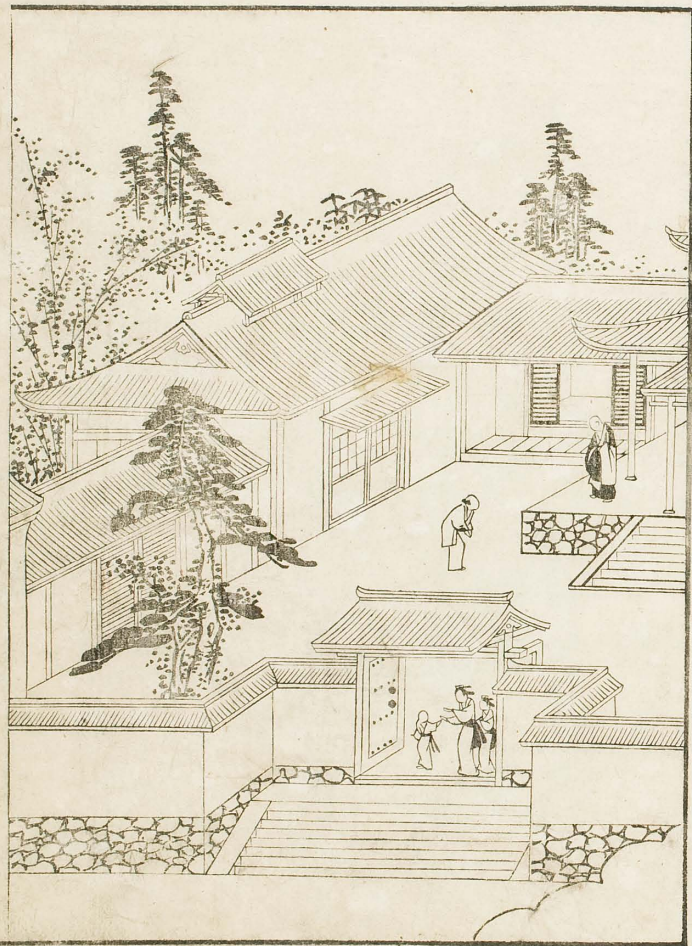
皇后三韓平治  
御歸陣  
うし時められ  
る御甲を祝ひ  
甲明神と  
奉る











三國山向泉寺





方違大明神社

神功皇后三韓より歸朝し來て住吉明神爰に住をさ  
し、施宣より泉州地守の浦へ移せしむ此所にて  
方違の御役より今の住吉の地へ御鎮座し移せしむ  
旧跡と方違大明神と汎い祭り奉る是よりて家宅を營  
むるの此社地の土に受て其造作の地よりつとすこい旅立  
船中長途の時も此土と方違の守る例年五月晦日當社  
の祭れとて土の糒を供へ奉る土俗羣るより方違の御礼并  
此標と拜受す平常の日々向泉寺の別當是とあり諸  
人の需ふ應へて何となくや人の知る所なり



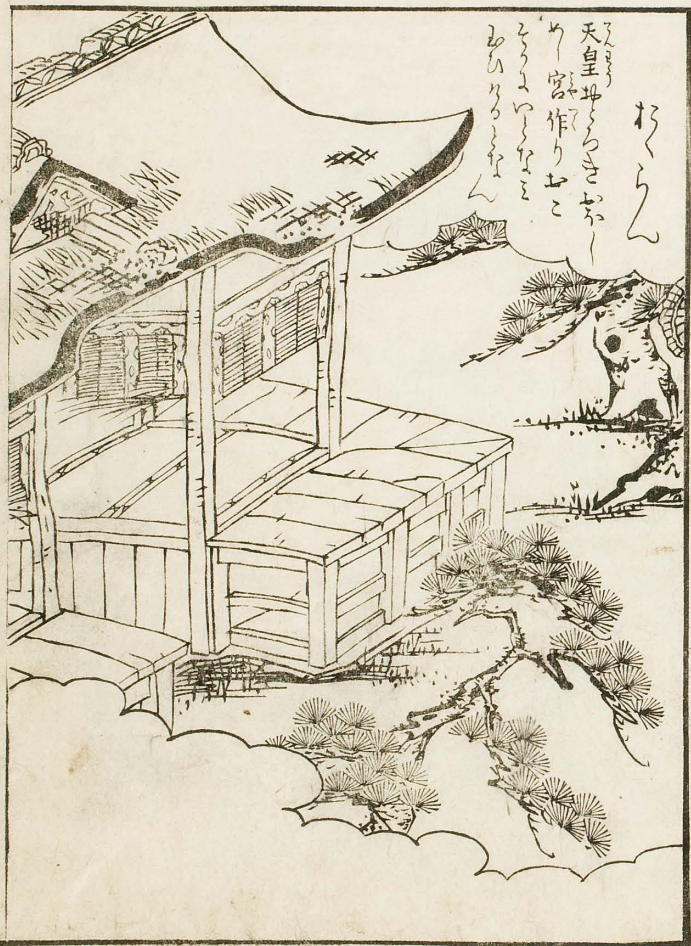
三  
國  
志

鳴鳳















我々の心  
西の林に  
梅の花  
みぎの  
花の  
とて  
とて  
見ると

後村上 帝  
御製

後醍醐天皇の  
 大納言・典侍・左大臣  
 西村寺と云  
 所に住たり  
 時彼  
 寺に梅  
 の花と  
 あり



むう  
紀の義定  
とく人住  
てふふふ  
てたるふふ  
め的美目ら  
をきき  
あいてあ  
はるん  
がうん  
はすの年  
あ浦うら  
てやこ  
と

たちよえ  
 市よある  
 人よあり  
 うれはる  
 うぢく  
 舟より  
 ち  
 極きの  
 まくばるの  
 の  
 といふなり  
 其なり  
 新なり  
 住み北浦のなる  
 うれぬかり  
 今  
 すべてなる





いさ  
くろ  
くろ  
ん



大に匡衡の妻赤染衛門其子學周也  
病臥てをたれ見へたれ衛門をく  
住明神へ歌よ奉る

かゝんと祈る命をたれよ

かゝんと祈る命をたれよ

たのしみとくく成ぬ位よ

すうけいひのききえせ

いん

ちろと

すうけいひ

唯けいひの

すうけいひ

いん

奉納

学周

病



経古のおうひと  
 りふとわたり万葉

恒の江乃

三

打

現

あきらめ

かゝると

五

顯照云小集

樂々々々 鄙人

の  
ら  
ま  
あ

上  
下  
上

任事十年

卷之二

おてくらし



とて遊ふ

今

此里の人

まのころ

あり

號  
之  
抄  
集

て宴  
河  
中

号  
 之  
 是  
 下

子

✓  
✓  
✓  
✓  
✓

20

52

10  
11  
12



...

10

18







おのゝころふううしねる中すの留てふてお  
 けしせむのちるはつとれたかゝる言乃婦  
 理はとておちあふる氣中かきちせむのつう  
 妻村のきしねるあふうとふふもるをいふ  
 のきしねるあふうとふふもるをいふ  
 いふとねるあふうとふふもるをいふ  
 孫いんあふうとふふもるをいふ  
 先一とふふとふふもるをいふ  
 といふとふふとふふもるをいふ  
 ゆくはなれいねるあふうとふふもるをいふ

といふとふふとふふもるをいふ  
 うけしねるあふうとふふもるをいふ  
 孫神いふとふふとふふもるをいふ  
 といふとふふとふふもるをいふ  
 名孫國とふふとふふもるをいふ  
 需むとふふとふふとふふもるをいふ  
 世とふふとふふとふふもるをいふ  
 といふとふふとふふとふふもるをいふ  
 といふとふふとふふとふふもるをいふ  
 といふとふふとふふとふふもるをいふ



常は庵よりあまの度のふれは幸ねとて  
 たりとて糸の通司れり業にゆふれは幸ねとて  
 おろなる幸しそのうのほたるもくは幸ね  
 ふるふとたる魚しそやとけのふとてゆふ  
 休るゆえちり記志うなるとてゆふなる  
 四所の湯神におぬんとてゆふとあか  
 なるえちりとてゆふとてゆふとてゆふ  
 のこちりとてゆふとてゆふとてゆふ  
 なる浪井の孫師玉山敬とてゆふ



寛政六甲寅歳六月吉辰

大坂高麗橋上人早

大西甚七

京御幸町御池下

藤井孫兵衛

江戸通本町三丁目

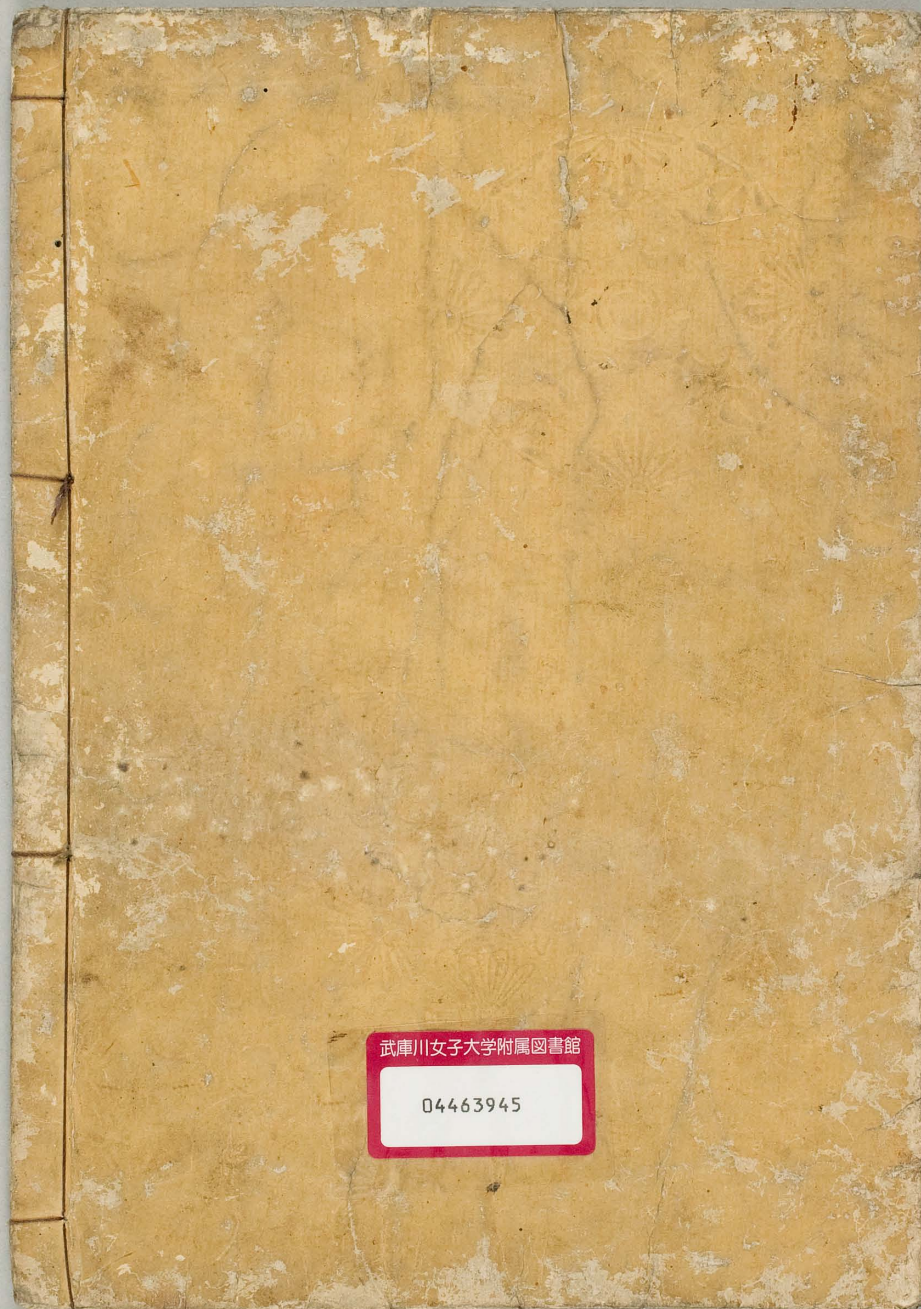
西村源六

同右町

雁金屋治右衛門

書林





武庫川女子大学附属図書館

04463945